ほうれんそう 病害虫防除暦

ＪＡ庄内たがわ
令和8年度（2026年）版

防除体系（登録薬剤）

2026.1.7時点の農薬登録情報をもとに作成

殺虫剤、殺菌剤

防除時期	対象病害虫	登録農薬名	RACコード	希釈倍数	水100㍑当り薬剤量	使用時期	使用回数	備考	
播種前	ネキリムシ類 ﾎｳﾚﾝｿｳｹﾅｶﾞｺﾅﾀﾞﾆ	フォース粒剤（劇）	I：3A	9kg/10a	—	播種前	１回	全面土壌混和	
生育期	べと病	ランマンフロアブル	F：21	2000倍	50ml	収穫３日前まで	３回以内	いずれかを散布する	散布液量100～300ℓ/10a
		レーバスフロアブル	F：40	2000倍	50ml	収穫３日前まで	２回以内		散布液量100～300ℓ/10a
	アブラムシ類	マラソン乳剤	I：1B	2000～3000倍	33～50ml	収穫１４日前まで	４回以内	散布液量100～300ℓ/10a	
	アブラムシ類 ﾎｳﾚﾝｿｳｹﾅｶﾞｺﾅﾀﾞﾆ	リーフガード顆粒水和剤（劇）	I：14	1500倍	66ml	収穫７日前まで	２回以内	散布液量100～300ℓ/10a	
	ヨトウムシ	ノーモルト乳剤	I：15	2000倍	50ml	収穫７日前まで	２回以内	散布液量100～300ℓ/10a	
	ケナガコナダニ類	ネコナカットフロアブル	I:10B	1000倍	100ml	収穫３日前まで	２回以内	コナダニが表層土に移動する本葉2葉期頃がおすすめ 散布液量200～300ℓ/10a	
	アブラムシ類 アザミウマ類	アドマイヤーフロアブル（劇）	I：4A	4000倍	25ml	収穫前日まで	２回以内	散布液量100～300ℓ/10a	
	ハスモンヨトウ ﾎｳﾚﾝｿｳｹﾅｶﾞｺﾅﾀﾞﾆ	ディアナSC	I：5	2500倍	40ml	収穫前日まで	２回以内	散布液量100～300ℓ/10a	

除草剤

適用雑草名	登録農薬名	10a当たり使用量（散布液量）	RACコード	使用時期	使用方法	使用回数	注意事項
1年生雑草	ラッソー乳剤	150ml （100ℓ）	H：15	播種直後	全面土壌散布	1回	1.砂質土壌では使用を避ける。 2.イネ科雑草に効果があるが、タデ科、アカザ科などの広葉雑草に効果が劣る。 3.雑草発芽後では効果がないので、発芽前に散布する。 4.きゅうり、ねぎに薬害が発生しやすいので、飛散しないように注意する。
1年生雑草	アージラン液剤	秋播き 600～800ml （100～200ℓ） 春～初夏播き 800～1,000ml 但し、芽出し播きは 800ml （100～200ℓ）	H：18	播種後～子葉展開期	全面土壌散布	1回	1.砂壌土、砂土では薬害を生じやすいので注意する。 2.高温時（最高気温25℃以上）では薬害が生じるおそれがあるので使用しない。 3.播種後～子葉展開期までで、雑草の発生前～発生始期（草丈15cm以下）に、使用量を厳守して散布する。 4.ヒユ科・アカザ科・カヤツリグサ科雑草及びツユクサに対しては効果が劣る。

適正管理について！

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 園地の適正な排水管理を行う。
3. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
4. みつばちへの配慮を行う。

防除器具の農薬残留に留意！！

・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整後にもう一度通水し洗浄しましょう。
・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。